

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二二七二〇七

今日(21)は非協力を確認行動に決起せよ

国鉄「分割・民営化」阻止 / 三里塚二期着工粉碎 /

報 争 闘

昨日(20)は1000名超えの団結で「60・3」案撤回、要求貫徹へ
更に体制うち固め、**21日行動へ!**

二月二〇日、動労千葉一二〇〇は一九と成り、当局、反動勢力の必死の闘争圧殺策動を打ち破って非協力・安全確認行動の第一波闘争に突入した。
殺人的な労働強化と大量首切りの突破口、「60・3」を粉碎し、八〇年代に通用する労働運動をつくり出す決意もあらたに、二〇日の闘いにつづき、今日(二一日)も闘いを貫徹しよう。

全支部で万全の体制を
確立し闘いに突入

われわれは肉体的、精神的限界をこえた労働強化と、大巾な人減らしに加え、合理化の強行で生み出す「過員」を「キオスク」や「車検工場」や「要員センター」へ強制配転せんとする理不尽な「60・3」提案に抗議し、撤回を求め、二月二〇日、非協力・安全確認行動の第一波闘争に突入した。

この闘いは、国鉄労働運動が十〇十五万人首切り攻撃との前哨戦である「60・3」を後景化させつつある厳しい状況の中で、「八〇年代に通用する労働運動を創りだそうぜ」を合言葉に、職場集会、個別オルグの積み重ねをはじめ、創意工夫をこらしたたたかいを通して決起したものである。各支部は万全の闘争体制を確立し、十九日の総決起集会をもって歴史的闘いに突入した。
成田、館山、津田沼支部から闘いの報告が入った。

津田沼で国労共闘

第三波行動かちとる

十九日、津田沼支部青年部は、国労津田沼電車区分会青年部との共闘による「60・3」粉碎の第三波行動をかちとった。集会には七〇名が結集し、両青年部役員から断固たる決意が述べられた後、第一〜二波行動に処分をちらつかせる区当局に対する抗議行動を展開した。青年部は共闘行動でさらに当局を追い詰め、二〇日、二一日の非協力・安全確認行動を貫徹し、3・

オルグ・集会で全員の意志一致を
かちとつた館山支部

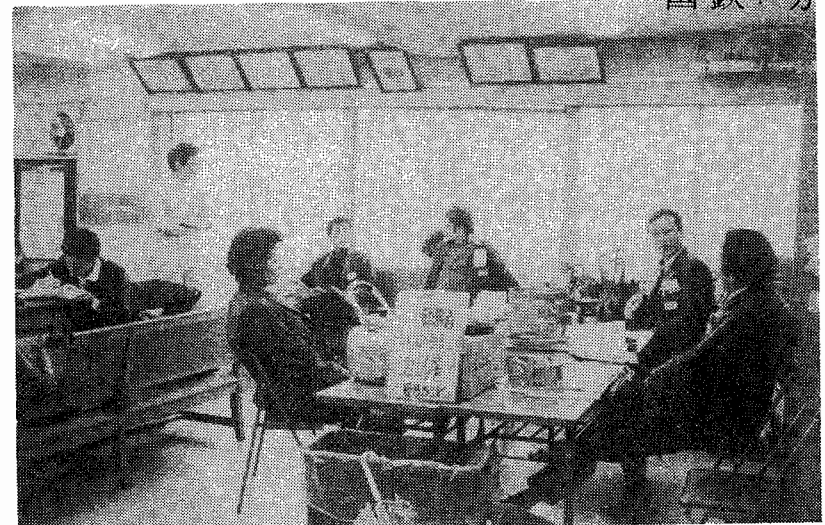
館山支部は全組合員に対する個別オルグを終了し、十九日、五〇名の組合員の結集をもって総決起集会を開催した。
笹生支部長が、非協力・安全確認行動の闘争方針を提起し、「厳しい情勢にまけないよう一致団結し、一人の脱落もないよう闘いぬこう」と訴えた。経験のない若い組合員のために、川名元支部長をはじめ、先輩から過去の「順法闘争」の経験や教訓が語られ全体で意志一致をかちとった。

集会終了後、館山駅頭および地区労集会で「安全運転を無視する『60・3』ダイヤ改悪」「大量首切りと運賃値上げでは解決しない」「私たちは闘います」との動労千葉のピラをまき、労働者・市民に理解と協力を訴えるとともに、役員は闘争貫徹にむけ籠城体制に入った。

成田支部で前夜総決起集会かちとる

成田支部は十九日の十七時より、運転区講習室に八〇名を結集し、前夜総決起集会を開催した。
高木副支部長の司会のもと、日暮支部長は「地域班、ブロック別の集会を積みあげてきたが、二〇〜二一日のたたかいはこれからの闘いの第一歩であり、一糸乱れぬ闘いを貫徹しよう」とあいさつした。

三里塚からは萩原事務局長がかけつけ「三里塚と動労千葉の闘いが必ずや勝利をかちとるものと確信している」と激励された。
本部の山口副委員長の「明日からの実力闘争、3・2〜3・24への総決起が敵の攻撃をはね返す力となる。全力で闘おう」とのあいさつの後、大須賀書記長より基調報告が行われ、具体的闘争方針を確認して終了した。
支部は直ちに籠城体制に入り、第一波闘争を全力で闘いぬく決意である。



2.20闘争突入の朝
一人ひとり、組合方針についての意志統一を固めて乗務につく。突入才1日目の初電を送り出したあとの千葉運転区東務局長話所。固志みなぎる。